

令和5年度 「公共」 シラバス (1年前期・2年後期)

科目名	年次	単位数	履修	スクーリング回数	レポート回数
公共	1・2	2	必修	6回	6回

1 「公共」の目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2 到達目標

①現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

②現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。

③よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

3 評価の観点

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

4 成績評価の方法

レポート、スクーリング、定期考査で総合的に評価する。

5 使用教材

①教科書：第一学習社 「高等学校 新公共」

②その他：スクーリング用プリント

6 年間指導計画

期	面接回数	面接日	レポート	単 元	学 習 内 容	評価の観点
前・後期	1回	4月9日 4月10日 ・ 10月8日 10月9日	第1回	第1編 公共の扉 第1章 第2章 第3章	<ul style="list-style-type: none"> ・社会に参画する自立した主体とは、様々な集団の一員として生き、他者との協働により国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを学ぶ。 ・社会に参画する際の選択・判断する為の手掛かりとなる概念や理論を理解する ・公共的な空間における基本的原理を理解する。 	知識・技能 思考・判断 表現 主体的態度
	2回	4月16日 4月17日 ・ 10月15日 10月16日	第2回	第2編 第1章 法的な主体となる私たち	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法に定められている権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。 ・契約と消費者の権利・責任に関わる現実社会の事柄や課題を理解する。 ・個人や社会の紛争を法に基づいて公正に解決するために必要なしくみと、国民が果たすべき責任を理解する。 	知識・技能 思考・判断 表現 主体的態度
	3回	4月23日 4月24日 ・ 10月22日 10月23日	第3回	第2編 第2章 政治的な主体となる私たち	<ul style="list-style-type: none"> ・民主政治を推進するために、選挙の意義と基本原則、政治のしくみを学び、私たちが果たすべき責任を理解する。 ・主権国家が並び立つ国際社会の成り立ちや国際連盟のしくみや課題について理解する。 ・日本国憲法の平和主義の下、日本の安全保障と沖縄の現状、課題について学び、私たちが果たすべき責任を理解する。 	知識・技能 思考・判断 表現 主体的態度
	4回	5月21日 5月22日 ・ 10月29日 10月30日	第4回	第2編 第3章 経済的な主体となる私たち 主題8 主題9	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用と労働問題に関わる現実社会の事柄や課題を理解する。また、自分の将来のあり方について考える。 ・現代の企業や中小企業の現状と役割を学び、将来の働き方をどう考えていけばよいか理解する。 	知識・技能 思考・判断 表現 主体的態度
	5回	6月25日 6月26日 ・ 11月5日 11月6日	第5回	第2編 第3章 経済的な主体となる私たち 主題10 主題12	<ul style="list-style-type: none"> ・市場経済の機能と限界に関わる現実社会の事柄や課題を理解する。 ・財政や社会保障を持続可能なものにするために、政府はどのような役割を果たしていくべきなのかを理解する。 ・財政の役割と社会保障に関わる現実社会の事柄や課題を理解する。 	知識・技能 思考・判断 表現 主体的態度
	6回	7月2日 7月3日 ・ 11月19日 11月20日	第6回	第2編 第3章 経済的な主体となる私たち 主題13	<ul style="list-style-type: none"> ・経済がグローバル化するなかで、貧困や格差などの問題を乗り越え、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や私たちがどうあるべきか考える。 ・地球環境や資源・エネルギー問題など私たちが抱える問題、課題について学び、私たちが果たすべき責任について理解する。 	知識・技能 思考・判断 表現 主体的態度

令和5年度 「歴史総合」 シラバス (3年前期・2年後期)

科目名	年次	単位数	履修	スクーリング回数	レポート回数
歴史総合	2・3	2	必修	6回	6回

1 「歴史総合」の目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざす。

2 到達目標

- (1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解し、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3 評価の観点

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

4 成績評価の方法

レポート、スクーリング、定期考査で総合的に評価する。

5 使用教材

- ① 教科書：山川出版社 『わたしたちの歴史 日本から世界へ』
- ② その他：スクーリング用プリント、パワーポイントスライド提示

6 年間指導計画

期	面接回数	面接日	レポート	単 元	学 習 内 容	評価の観点
前・後期	1回	4月16日 4月17日 ・ 10月1日 10月2日	第1回	第1部 近代化と私たち 日本の開国と世界 (教科書p26～41)	<ul style="list-style-type: none"> ・18世紀の世界とアジアにおける経済と文化の発達について考察する ・日本の開国と世界情勢のお背景について理解する ・産業革命と社会の変化がもたらす構造の変化を理解する。 	知識・技能 思考・判断・表現 主体的態度
	2回	5月14日 5月15日 ・ 10月8日 10月9日	第2回	明治維新と帝国主義 (教科書p46～63)	<ul style="list-style-type: none"> ・明治維新と文明開化が日本の社会に与えた影響について考察し理解する。 ・日本の産業革命と日清・日露戦争による日本の社会背景の変化を理解する。 ・帝国主義が世界に与えた影響うと国家間の対立を考察する。 	知識・技能 思考・判断・表現 主体的態度
	3回	5月21日 5月22日 ・ 10月15日 10月16日	第3回	第2部 国際秩序尾の変化 や大衆社会と私たち 第一次世界大戦と日本 (教科書p72～93)	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦が起こった背景について考察し、日本の参戦と世界情勢の変化を理解する。 ・国際協調体制の芽生えとしてのヴェルサイユ体制とワシントン体制の特徴を理解する。 ・世界恐慌が起きた原因とその後の国際社会の変化について考察し理解する。 	知識・技能 思考・判断・表現 主体的態度
	4回	5月28日 5月29日 ・ 10月22日 10月23日	第4回	第二次世界大戦と日本 (教科書p94～111)	<ul style="list-style-type: none"> ・独裁勢力の台頭と第二次世界大戦の起きた背景をヨーロッパ、アジア、日本それぞれを対比させ考察する。 ・大戦の終結の過程と国際秩序構築までの様子を理解する。 ・日本の敗戦と戦後、GHQによる占領政策の特徴を理解し、日本国憲法の制定過程や特徴なども考察する。 	知識・技能 思考・判断・表現 主体的態度
	5回	6月11日 6月12日 ・ 11月5日 11月6日	第5回	第3部 グローバル化と 私たち 冷戦の展開と世界の変化 (教科書p126～145)	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦構造の拡大と固定化による軍備拡大の様子を理解し、米ソ対立の過程を理解する。 ・高度経済成長の過程を理解する。 ・日本やアジアの経済成長とその要因を理解する 	知識・技能 思考・判断・表現 主体的態度
	6回	6月18日 6月19日 ・ 11月19日 11月20日	第6回	冷戦構造の終結と現代の課題 (教科書p146～163)	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦の終結とソ連解体の様子を理解し、その影響と社会の変化を考察する。 ・冷戦後の東西ドイツ統合に代表される変化と頻発する地域紛争の背景を理解する。 ・現代世界と日本の諸課題について考察する。 	知識・技能 思考・判断・表現 主体的態度

令和5年度 「地理総合」 シラバス (3年前期・2年後期)

科目名	年次	単位数	履修	スクーリング回数	レポート回数
地理総合	2・3	2	必修	6回	6回

1 「地理総合」の目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民として資質・能力を育成することを目指す。

2 到達目標

- (1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したりする力を養う。
- (3) 地理に関わる事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

3 評価の観点

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を身に付け、考察、構想したことを効果的に説明している。	地理に関わる事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

4 成績評価の方法

レポート、スクーリング、定期考査で総合的に評価する。

5 使用教材

- ①教科書：帝国書院 『高等学校 新地理総合』
- ②その他：スクーリング用プリント、パワーポイントスライド提示

6 年間指導計画

期	面接回数	面接日	レポート	単 元	学 習 内 容	評価の観点
前・後期	1回	4月16日 4月17日 ・ 10月8日 10月9日	第1回	第1部 第1章 1節 地球上の位置と時差 第1部 第2章 1節 現代世界の国家と領域	<ul style="list-style-type: none"> 地球上の位置は緯度や経度で表すことができることを学ぶ。 国家の領域や国境の決まりについて学ぶ。 日本の位置や領域、排他的経済水域の特徴について学ぶ。 	知識・技能 思考・判断・表現 主体的態度
	2回	4月23日 4月24日 ・ 10月22日 10月23日	第2回	第2部 第1章 1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活	<ul style="list-style-type: none"> 大地形は、人々の生活とどのように関わり合っているかを学ぶ。 変動帯の地形、河川がつくる地形について学ぶ。 世界の植生は、気候とどのように関わり合っているかを学ぶ。 	知識・技能 思考・判断・表現 主体的態度
	3回	4月30日 5月1日 ・ 10月29日 10月30日	第3回	第2部 第1章 2節 世界の気候と人々の生活	<ul style="list-style-type: none"> 熱帯、乾燥帯、温帯、亜寒帯、寒帯の気候と植生は、人々の生活とどのように関わり合っているかを学ぶ。 	知識・技能 思考・判断・表現 主体的態度
	4回	5月7日 5月8日 ・ 11月5日 11月6日	第4回	第2部 第1章 3節 世界の言語・宗教と人々の生活文化	<ul style="list-style-type: none"> 言語や宗教は、人々の生活にどのような影響を与えているかを考える。 インドの人々の暮らしに、ヒンドゥー教はどのように関わっているか、経済成長により生活はどのように変化しているかを学ぶ。 アメリカ合衆国の産業や農業は、世界の人々の生活にどのような影響を与えているかを学ぶ。 	知識・技能 思考・判断・表現 主体的態度
	5回	5月28日 5月29日 ・ 11月12日 11月13日	第5回	第2部 第2章 1節 地球的課題 2節 地球環境問題 3節 資源・エネルギー問題 4節 人口問題 5節 食料問題	<ul style="list-style-type: none"> 現代世界に存在する地球的課題について学び、課題の解決に向けて私たちに何ができるかを考える。 	知識・技能 思考・判断・表現 主体的態度
	6回	6月11日 6月12日 ・ 11月19日 11月20日	第6回	第3部 第1章 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波と防災 3節 火山災害と防災 4節 気象災害と防災 5節 自然災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> 世界や日本の各地で発生する自然災害は、その地域の地形や気候といった自然環境と密接に結びついている。 日本の地形や気候にはどのような特徴があるか学び、自然災害の被害を減らすためには、どのような取組が必要かを考える。 	知識・技能 思考・判断・表現 主体的態度

令和5年度 「沖縄の歴史」 シラバス

科目名	学年	単位数	履修	スクーリング回数	レポート回数
沖縄の歴史	3年次	後期2	選択	6回	6回

1. 「地理歴史科」の目標

わが国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う。

2. 「沖縄の歴史」の目標

沖縄のみを学ぶのではなく、沖縄を主体的に、世界や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

3. 「沖縄の歴史」の概要

近現代史を中心とする沖縄の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察する。

4. 到達目標

歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

5. 評価の観点

①関心・意欲・態度

沖縄や日本、世界の各地域の歴史に対する関心を高め、意欲的に追求している。

②思考・判断

沖縄や日本、世界の各地域の歴史を我が国の歴史と関連付けて、多面的・多角的に考察している。

③考察・実験の技能表現

沖縄や日本、世界の各地域の歴史に関する文献、絵画、統計などの諸資料を活用することを通じて、歴史的事象を追求する方法を見につけるとともに、追及し考察した過程や結果を適切に表現している。

④知識・理解

沖縄や日本、世界の各地域の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けて理解し、その知識を身につけている。

6. 成績評価の方法

定期考査・レポート・スクーリングで総合的に評価する。

7. 使用教材

教科書：『新訂ジュニア版 琉球・沖縄史』（編集工房 東洋企画）、スクーリング用プリント

8. 年間指導計画

期	面接回数	面接日	単元	学習内容	切	評価の観点
				面接指導（スクリーニング）・レポート		
後 期	1	10月15日 16日	第1部 第1章 琉球・沖縄文化のあけぼの 第2部 第2章 琉球王国の誕生 第3章 琉球王国の繁栄	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄人（ウチナンチュ）はどこから来たかを琉球列島誕生や港川人等の化石人骨資料より理解させる。 ・貝塚文化が本土や沖縄、宮古八重山それぞれ異なった文化が形成されたこと把握させる。 ・沖縄のグスク時代が中国（明代）との朝貢・冊封による東アジア社会の新秩序体制があったことを理解させる。 ・琉球王統の流れを整理するとともに、首里城造営や琉球文化の特徴、琉球の大交易時代の繁栄と衰退について理解させる。 	10月25日	関心・意欲 ・態度 知識・理解
	2	10月29日 30日	第3部 第4章 薩摩の侵攻 第5章 琉球併合（琉球処分）	<ul style="list-style-type: none"> ・薩摩がなぜ琉球を侵略したのかを理解させる。 ・薩摩統治時代、日本文化導入の政治改革が行われ古琉球から近世琉球への転換を理解させる。 ・近世琉球文化の特徴（組踊等）を理解させる。 ・琉球併合（琉球処分）の歴史的意味を世界史の観点から解説し、近代琉球（沖縄）を理解させる。 	11月8日	関心・意欲 ・態度 知識・理解
	3 4	11月12日 13日	第4部 近代の沖縄 第6章 沖縄県政のはじめ 第7章 十五年戦争 ★フィールドワーク 外人墓地（へり上陸の地） →新屋敷公園→天久宮→ 聖現寺→フルフェーリン	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県政のながれを整理し、明治政府が行った富国強兵政策のもとに沖縄県がどのような社会になっていったかを理解させる。 ・当時の世界情勢（戦争・経済）によって、影響を受けた沖縄県人の状況を理解させる。 ・沖縄戦は、満洲事変から日中戦争、太平洋戦争へと拡大していったいわゆる15年戦争の最終戦局であったことを世界史の観点から理解させる。 ★琉球八社の1つ天久宮の説明、外人墓地の概要とペリー提督の説明、泊手松茂良興作の説明 	11月22日	関心・意欲 ・態度 知識・理解
	5 6	11月26日 27日	第5部 戦後の沖縄 第8章 米軍支配と「祖国復帰」 運動 第9章 復帰後の沖縄 ★フィールドワーク バジルホール（とまり緑地帯）→崇元寺→ 長虹堤跡→前島塩田跡	<ul style="list-style-type: none"> ・米軍基地問題を沖縄戦終了後の生活より流れを整理し、理解させる。 ・日本復帰によって沖縄県に何をもたらしたのか、そして何が変わらなのかを整理し、理解させる。 ・日米地位協定についての資料を参考にどんな協定であるかを理解させる。また、世界との地位協定（ドイツ・韓国等）との比較をしながら、考察する。 ・21世紀の沖縄がどこに向かうのかを基地問題・経済問題・環境問題・教育問題などを考察する。 ・軍事基地（米軍と自衛隊）が沖縄県にとって何をもたらすのかを資料を参考に考察する。 ★崇元寺の宗教的役割と冊封体制、第一尚氏王統尚金福代の長虹堤、前島塩田跡の説明 	12月6日	関心・意欲 ・態度 知識・理解